

# NMSH TOPICS

— VOL.11 2017/10月 —



汲田 伸一郎 院長

## 今月の院長のイチオシ! 『脳神経外科』

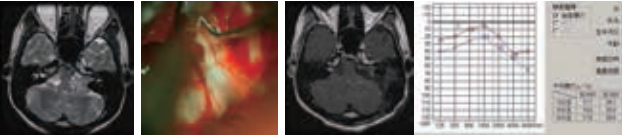
超高度医療から救急医療、生活習慣病に至るまで  
広範囲な領域をカバーする「心ある医療」をめざす

<症例1>視力障害、尿崩症で発症した頭蓋咽頭腫症例 経鼻手術で摘出



左:術前MRI間脳に大型の腫瘍 中:術中写真 右:術後 腫瘍はほぼ全摘出されている

<症例2>神経線維腫症2型の両側腫瘍

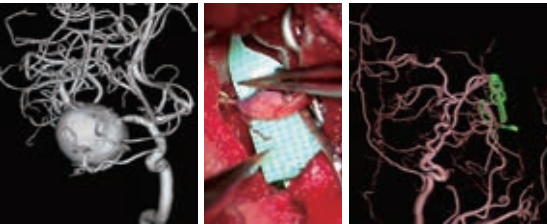


術前 左腫瘍摘出 術後 左の聴覚も温存

**経験に基づいた  
脳腫瘍の治療で実績多数**

当科は大学病院としては数多くの下垂体腺腫や頭蓋咽頭腫などの下垂体部腫瘍を扱っています。神経内視鏡を用いる低侵襲な治療法の多くの経験を持ち、良好な成績を納めています。また開頭して行う脳腫瘍の手術も多数例を施行しており、左言語野のグリオーマの覚醒下手術、聴覚温存をめざした聴神経腫瘍の手術など、困難な手術をモニタリングを行う検査技師や麻酔科の協力の下で実施しています。

<症例3>拡大傾向のある紡錘状巨大中脳動脈瘤:  
バイパス術を駆使して治癒に至る



術前 バイパス術 術後

**着実な顕微鏡下手術による  
脳血管障害の手術**

当院では未破裂・破裂脳動脈瘤の開頭クリッピング手術を救命救急チームと合わせて多数手掛け、できる限り運動や視覚のモニタリングを用いて安全な手術をめざしています。もやもや病や脳梗塞などの手術実績も多く、顕微鏡下バイパス術は得意手術の一つです。さらに、多くのバイパスや頭蓋底手術を必要とする、困難動脈瘤も扱っており、血管内治療も他の付属病院や近隣の医療機関と協力して積極的にを行っています。

終わりに:

近年注目を集めている末梢神経障害による腰痛や上下肢痛、脊椎・脊髄の疾患治療も多数行っています。救命救急センター、脳卒中センター、リハビリテーション科と極めて緊密に連携しており、頭部外傷、脳血管障害急性期の対応も「日本一強い脳神経救急チーム」をめざして構築しています。安心して私たちに「脳疾患の治療」をお任せください。



森田 明夫  
脳神経外科部長、  
大学院教授  
専門:脳血管障害、  
頭蓋底腫瘍



山口 文雄  
寄附講座教授  
専門:脳腫瘍



田原 重志  
医長、准教授  
専門:下垂体・間脳病変



村井 保夫  
准教授  
専門:脳血管障害、  
良性脳腫瘍



森本 大二郎  
医局長、病院講師  
専門:脊髄・末梢神経障害



## 未来へつづく病院づくり

日本医科大学付属病院は、1910年の開院以来、専門家による高度な医療技術や設備を備え、地域医療に幅広く貢献してきました。今後も未来へつながる医療・医療人を創っていくべく、2006年、日本医科大学創立130年を迎えた節目の年に、千駄木地区再開発事業計画として、学校法人日本医科大学アクションプラン21を策定。「全ては患者さんのために」という理念を守りゆくため、「未来へつづく病院づくり」として建設してきた新病院の第2期工事が完了します。

## 断らない医療のために、そして地域と、未来のために



24時間365日体制で専属の医師、スタッフが治療にあたる

### 24時間対応のホットライン

高度救命救急センター内に配置された、多臓器不全、多発外傷治療等を対象とする「高度救命救急センター専用ホットライン」、心臓疾患を対象とする「心臓救急専用ホットライン」、脳卒中を対象とする「脳卒中ホットライン」、重症呼吸不全を対象とする「ECMO専用ホットライン」において、地域の連携病院・診療所の医師の皆さんからのご連絡を24時間体制でお受けします。

### ハイブリッド手術室

内科的カテーテル治療と外科的手術が同室で行える新鋭の設備を配置したハイブリッド手術室を含む、先進の手術室22室をご用意いたします。

### 地域と密接な連携を

24時間365日、あらゆる患者さんに対して「断らない医療」を貫くため、高度急性期病院として、地域との密接な連携の下、最新の医療環境の実現を一層図ります。

### 高度救命救急センターが 国内最大レベルの60床に

CCM40床、CCU12床、SCU8床と、重症部門を一元化。院内の重症患者さんと救急搬送されてきた患者さんのフロアを分けて院内感染等のリスクを最小化し、すべての三次救急に対応。総合診療センターと合わせて24時間体制の救急対応体制をさらに強化しました。



新病棟の屋上には、想定外の救急対応・災害医療に備えたヘリポートを用意



## 新病院 コンセプト

POINT  
1

病室は患者さんがリラックスできるような十分な空間を確保

POINT  
2

広いホスピタルストリートを設け、利用者の方々の利便性を高めると同時に、災害時の救援活動の拠点として活用

POINT  
3

すべての人が利用しやすいユニバーサルデザインを取り入れ、万人に快適な施設へ

POINT  
4

光と緑を意識した空間設計で、憩いと安らぎを提供



診療ブースを複数診療科で共有し、患者のニーズによって診療体制を変えていけるユニバーサル外来を導入

### 地域がん診療連携拠点病院

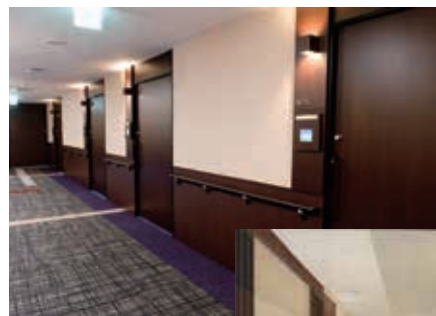
患者さんの病態に応じて、手術以外にも化学療法、放射線治療、緩和ケアなどを組み合わせた集学的治療を行っています。また、隣接する日本医科大学健診医療センターとの連携により、がんの早期発見や迅速な治療が可能です。



院内にはうどん屋など、待ち時間を過ごすのに十分なさまざまなタイプのアメニティを併設

### 総合診療部門の充実と ユニバーサル外来

「断らない医療」の一環として、総合診療センターには総合診療のスペシャリストが常駐し、専門各科と密接に連携しながら、初期診療や24時間体制の救急対応を行います。また、各科が固定の診療ブースを持つのではなく、いくつかのブロックに分かれた診療ブースを共有するユニバーサル外来も取り入れています。

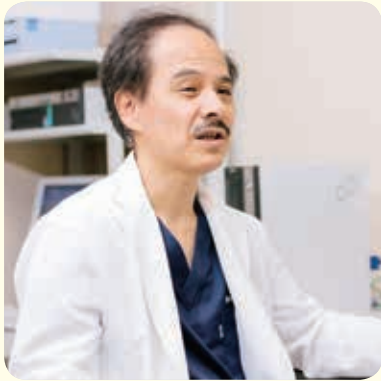


コンシェルジュ付きの病棟。ホテルのような落ち着いた雰囲気、入院中も安心してくつろげる空間を用意

### アメニティーの充実

患者さんご家族の利便性向上のため、レストラン、カフェ、コンビニエンスストアを併設し、アメニティーを充実。また、コンシェルジュ付きの病棟も用意いたしました。

## 内視鏡センター



内視鏡センター 部長  
貝瀬 満

北海道大学医学部卒業。虎の門病院等で内視鏡による消化管治療に携わる。2017年より日本医科大学教授・当院内視鏡センター部長。日本消化器病学会指導医・評議員。日本消化器内視鏡学会内視鏡指導医・評議員。日本消化管学会専門医・理事。

### 内視鏡検査・治療体制を強化 待機期間を短縮し、地域連携を進める

POINT  
1

新内視鏡センターでは、内視鏡診断・治療体制がさらに充実。消化管出血などに夜間も緊急対応

POINT  
2

拡大・超音波内視鏡などで悪性腫瘍を精密診断し、低侵襲内視鏡治療によって早期がんを根治

POINT  
3

胃がん検診での内視鏡検査普及に伴い、地域の医療機関との連携体制をさらに強化

### 高度な技術が必要な 早期消化管がんの内視鏡治療も可能

内視鏡センターは、胃、大腸、膵臓、胆管など消化器全体の内視鏡検査と、低侵襲内視鏡治療を統括します。

超高齢社会の中、臓器を温存しQOLが維持できる内視鏡治療は、ますますニーズが高まっています。NBI拡大内視鏡や超音波内視鏡によって消化管がんを精密診断。食道・胃・大腸などの早期消化管がんは、一般施設では治療困難な例でも、高度な技術と最新器械を用いた粘膜下層剥離術(ESD)によって根治切除が可能です。食道がんでは、内視鏡治療だけでなく、外科切除・放射線化学療法など各診療科が連携した集学的治療によって、ベストな治療を提供します。

消化管出血・急性胆管炎など緊急の内視鏡検査・治療が必要な急性疾患への対応も内視鏡センターの重要な仕事です。救急医療に注力する当院では、緊急内視鏡の体制を整え、急性疾患を断らずに診る方針。

地域の先生方からの緊急な問い合わせには、トリアージャーが直接電話で対応し、診療科へ要請ができる仕組みも整えています。

完成した新棟に設置された内視鏡センターには、検査・治療室6、透視検査室3、消化管機能検査室1の計10室を備え、新鋭の内視鏡器械も導入。これによって、診療体制が質量ともに充実し、上部消化管では初診から1〜2週間程度、下部も2〜3週間のうちに検査し、迅速な診断を下せるようになりました。

最近、対策型胃がん検診に内視鏡が導入され、地域の先生方との連携はこれまで以上に重要となっています。内視鏡検診の普及をお手伝いするとともに、精査内視鏡・治療が必要な方には最良の内視鏡医療の提供に努めますので、内視鏡センター(消化器肝臓内科・消化器外科)にご紹介ください。



各診療科と連携を図り、スピーディーな検査・治療に努めている

#### 2016年 消化器肝臓内科の診療実績

上部消化管内視鏡検査	4,882 例
内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD)	101 例
下部消化管内視鏡検査	2,893 例
大腸内視鏡的粘膜切除術 (EMR)	432 例
胆道膵臓内視鏡検査・治療	414 例
ダブルバルーン内視鏡検査	140 例
カプセル内視鏡検査	75 例

## リハビリテーション科



リハビリテーション科 部長

松元 秀次

1997年鹿児島大学医学部卒業、2006年同大学大学院医学研究科修了。熊本託麻台病院、アイオワ大学、鹿児島大学病院を経て2017年から現職。日本医科大学大学院リハビリテーション学教授兼任。ロボット治療や温泉療法の研究・開発も行う。

### 退院後の生活を考慮して 早期からリハビリテーションを開始

**POINT 1** 早期から介入する短期間の急性期リハビリテーションで、長期的な予後を改善

**POINT 2** 主診療科と連携して全身を診ながら、幅広い疾患にさまざまな方法で機能回復を図る

**POINT 3** 紹介先などと情報を共有する地域連携で、シームレスなリハビリテーションを提供

### 早期に嚥下機能を評価して 誤嚥性肺炎の予防や嚥下機能改善を図る

当科は急性期リハビリテーションを担当しています。当院には日々多数の救急患者さんが搬送されており、緊急治療を行い状態が落ち着いたら、その日のうちにリハビリを開始することもあります。当院では数日で退院、または2週間程度で転院する方がほとんどですが、期間でもできるだけ回復させられるよう努めています。また初期段階のリハビリが長期的なADL（日常生活動作）を改善することが知られていますので、早期に介入して効率的に行うよう心がけています。

リハビリテーションは、各専門職が協力して実施されます。当科にはそれをマネジメントする役割があり、チームの人間関係を円滑に保つとともに、各診療科の依頼に応えられるように幅広い疾患領域を学んでいます。からだ全体を診て、身体機能を高めることが重要なポイントです。

高齢の患者さんの場合、高

率で嚥下障害を伴います。誤嚥性肺炎につながることも危惧されますので、嚥下造影検査、嚥下内視鏡検査などにより早期から機能評価を行い、嚥下リハビリや肺炎予防を行っています。また、筋肉の痙縮に対するボツリヌス注射や、新しい治療法として脳の電気刺激療法、促進反復療法（川平法）、急性期でのリハビリテーションロボット・装具の活用などに取り組んでいます。

患者さんの転院先となるリハビリ病院には詳細な情報提供を行ってシームレスにリハビリが継続される体制を築くとともに、事例発表などを通じて経過の情報を共有し、改善に生かしています。当科は外来を開設し、高次脳機能障害の評価や指導、短期間の治療も行っていますので、先生方が診療する患者さんへリハビリ指導を希望される場合はぜひ、ご紹介ください。丁寧

に指導してお返しします。



早期回復へ向け、各診療科と連携しながら診療を行う



多くの器具がそろったリハビリテーション室



## 口腔科（周術期）



口腔科（周術期）部長  
久野 彰子

1993年日本歯科大学歯学部卒業。同大学総合診療科講師などを経て、2015年日本医科大学付属病院口腔科（周術期）の部長に就任。悪性腫瘍や心疾患などの治療中や術後の回復に悪影響を与える口腔トラブルを専門に診療している。

### 手術や化学療法時の口腔トラブルを未然に防ぎ体への悪影響を回避

POINT  
1

術前の入院患者さんの歯や歯肉のトラブルを事前に治療し、術後の合併症を防ぐ

POINT  
2

化学療法を受けている患者さんには、特にきめ細かい対応で副作用の発生を防止

POINT  
3

口腔と全身との関連について情報発信を進め、より良い医療提供をめざす

### 口腔トラブルをケアすることで 全身疾患の治療や回復を円滑に

口腔内には多くの細菌が生息しています。口の中が不潔な状態であれば、術後肺炎や傷口からの感染など全身への悪影響が起こりやすくなります。口腔科（周術期）は、主に入院患者さんを対象とし、悪性腫瘍や心血管疾患などの全身麻酔手術や治療の際に、口腔清掃状態やトラブルになるような歯をチェックし、必要があれば事前に歯科治療や清掃を行っています。

例えば歯が抜けそうな状態では、手術中に抜けて危険ですから、術前に抜歯することもあります。また、入院中にたまたま義歯や詰め物が壊れるなどのトラブルに見舞われた患者さんへの対応も迅速に行い、全身的な疾患の手術や治療のスケジュールに支障が出ないよう心がけています。基本的には医師から依頼を受け、電子カルテで情報共有しつつ診療を行います。特に抗血栓薬を服用している患者

さんや化学療法を受けている患者さんに関しては、抜歯の時期を見極め、出血や口腔感染症、顎骨壊死などを回避できるように注意を払いながら、きめ細かく治療しています。患者さんご家族に、病気の治療と口腔の状態の関係を説明するのも私たちの役割です。キャンサーボードや栄養サポートチームにも参加し、他職種との連携も心がけています。

病気の回復と食事は切り離せません。入院患者さんに「歯が治って食べられるようになった」と言っていただけでも、うに日々、努力しています。また、退院後も継続的な歯科治療が必要な患者さんは地域の歯科クリニックに紹介していますが、より連携を深めていきます。今後は口腔と全身との関連について情報発信に努め、医科歯科連携を進めていきたいと考えています。



健康で快適な口腔内を保てるように、歯磨き指導や歯の治療を行っている

**手術前後の口腔科受診について**

口の中にはたくさんの細菌が住んでいます。これらの細菌は、術後の肺炎や傷の治りを悪くするなどの合併症の原因となる場合があります。

口の中の細菌  
むし歯  
歯周病 など

肺炎  
手術時の歯のトラブル  
術後の傷口の感染  
口の中の不快症状

肺炎の予防や入院日数の短縮、転倒の予防など  
医科での治療に歯科が関わる効果が明らかになっています

日本医科大学付属病院

リーフレット等を用いながら、患者さんに口腔の重要性を説明している

## 医事課



医事課 主任  
福野 真弓

サービス業での接客などを経て、2017年1月、日本医科大学付属病院入職。当院の受付職員のマナー、接客改善のリーダーとして、新人教育や業務改善の仕組みづくりを行っている。



明るい笑顔で対応する受付スタッフ

### 患者さんからの声(投書)

「受付の方がとても気持ち良く、感じ良く対応してくれました」  
「スタッフさんの対応が素晴らしい。久しぶりに爽やかな気持ちになりました」

POINT  
1

「笑顔」を大切に、患者さんへ安心感を与えることを重視

POINT  
2

月1回のミーティングで患者さんの声や対応に困った事例を共有

患者さんの話をきちんと聞き取り  
親しみを感じてもらえる対応を

患者さんが病院を受診する際、最初と最後に接する「病院の窓口」が受付です。当院は外来窓口だけで50人弱の職員が働いています。受付職員が何よりも大切にしているものは「笑顔」。病気の患者さんに安心感を与えることです。

誰が担当しても同じ対応ができ、患者さんの期待に応えられるように、皆で解決策を探る仕組みをつくりました。当院では接客・マナー研修のほかに、各ポジションに1人ずつ接遇リーダーを決め、月1回のミーティングで患者さんの声や対応に困った事例などの情報共有を徹底。さらに、各ポジションで毎月、目標を定めて全員で取り組んでいます。患者さんの話をきちんと聞き取り、親しみを感じていただけるような対応、そして待ち時間が少し長くても、満足して帰っていただけるような接遇をめざしています。

## 看護部



総合診療センター 看護師長  
工藤 美美

1992年日本医科大学付属病院入職。2014年総合診療センター看護師長に。同センターに属する看護師21人(うちトリアージナース11人)を束ね、総合診療と24時間の救急体制を支える。

POINT  
1

問診、緊急度判断を行い、医師につなぐトリアージナースを配置

POINT  
2

症例カンファレンスで常に知識とコミュニケーション力を磨く

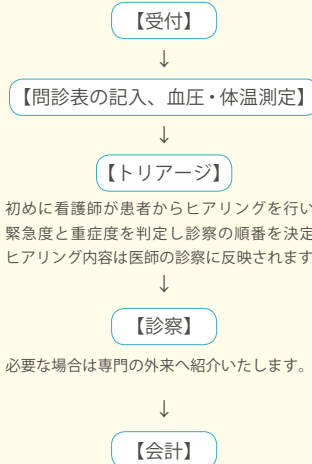
何科に紹介すればいいかわからない  
そんなときは、総合診療センターへ

当院の総合診療センターは、診断のついていない初診患者さんを診る総合診療外来と、一次・二次の救急患者さんを診る救急外来の役割があります。そのどちらでも、まず看護師が問診し、緊急度を判断して医師につなぐ「トリアージ」を担うのが特徴です。

トリアージにあたるのは、救急で3年以上の実務経験を持ち、一定の院内教育を受けた看護師。患者さんが最初に接する医療者になさわしい言葉や態度、短時間で病状を聞き取り、要約して医師に伝える能力や的確な判断力を備えています。そうしたスキルを身に付けるため症例の検証カンファレンスに注力し、全員で学ぶことを重視しています。

地域のクリニックの先生方が、何科に紹介すればよいかわからないとき、患者さんに救急処置が必要と思われるときは、迷わず総合診療センターにご紹介ください。

### 総合診療センター受診の流れ



新

## 緊急診療依頼における対応が変わりました

紹介元医療機関からの緊急診療依頼に対し、  
迅速な対応を目的として下記の電話番号を新規設置いたしました。  
トリアージ看護師が直接電話対応をいたしますので、よりスムーズに  
各診療科医師または看護師へ受け入れ可否の確認が可能になりました。

医療機関専用  
緊急診療依頼専用ダイヤル

GO!GO!日医!  
**03-5814-5521**

- ☎ トリアージ看護師が直接対応
- ☎ 24時間体制（日・祝日を含む）

### 対応の流れ



### ホットラインについて

当院では、可及的速やかな治療が救命のカギを握る疾患に対して、引き続き「ホットライン」を設けています。いち早く先生方と連携を取り、より迅速に患者さんを搬送できるようにいたします。

「高度救命救急センター」専用ホットライン

**03-5814-6699**

「心臓救急」専用ホットライン

**03-5814-5196**

「脳卒中」専用ホットライン

**03-5814-6922**

「ECMO」専用ホットライン

**03-5814-6507**

日本医科大学付属病院

患者支援センター 医療連携部門